養父市立 広谷小学校　　令和４年度　学校自己評価・学校関係者評価

令和５年３月17日

１　学校教育目標

ふるさとを愛し　自ら学び　未来に挑戦する　広谷っ子の育成

２　めざす具体像

〇めざす子ども像　①「強く」ねばり強く主体的に実践する児童　②「正しく」自ら学び個性を伸ばす児童
③「美しく」こころ豊かで思いやりのある児童

〇めざす学校像　「明日も行きたい」と心待ちにする学校
①温かさと活気に満ちた学校　②学ぶ喜びにあふれる学校　③信頼され、安心・安全な学校

〇めざす教職員像　①信頼される教職員　②教育愛に燃える教職員　③研修に励む教師

３　学校自己評価結果　（Ａ　優れている　Ｂ　良い　Ｃ　おおむね良好　Ｄ　要改善）　**太字は改善方策です。**

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	学校自己評価の適切さ
学校運営	・「明日もまた行きたい」と思う学級や学校にすることができたか。 ・「地域とともにある学校づくり（含むコミュニティスクール）」を推進できたか。 ・チーム広谷の一員として、協働的に仕事ができたか。 ・新型コロナウイルス感染症に適切に対応できたか。	A	・「きら星」の取組を全校的に進め、2000個を超える星が見つかった。「きら星通信」として月ごとにまとめ、ホームページで発信した。 また、各学級でも独自に取組を展開し、友だちの良さやがんばりを認め合える支持的風土が一層育ちつつある。 ・地域での見守り活動や除雪などのボランティアなど、子どもを支援していただけた。 秋に募集した「広谷っ子育て隊」には、10名の方に応募いただいた。さっそく、2年生の九九聞き取りに来ていただいた。 今後は、さらに実績を積み重ねるとともに、**地域のサークル活動を学校で行っていただくなど、**令和5年度に一層取組を推進していきたい。 ・あらゆる教育活動や学級経営など、積極的に情報を交流しながら、チーム広谷として仕事を進めることができた。職員の協働的な姿勢がこれを可能にしている。 ・「スポーツフェスティバル」などの学校行事や「環境体験学習」「自然学校」等を感染対策を講じながら、工夫して実施することができた。 また、１人１台タブレットの環境を活用して、臨時休業時や欠席者へのオンライン授業、説明会のハイブリッド開催、など、柔軟に対応できた。	・「明日もまだ行きたい学校」という基本方針に沿った学校運営がなされている。様々な取組がなされており、継続することで効果も大きいと思うが、先生方の負担増も考慮する必要がある。 ・「明日も行きたくなる学校」という言葉に共鳴する。 ・明日も学校に行きたいと思う学校づくり、素敵だと思う。そういう雰囲気を学校全体で作っているのは、よく伝わってくる。先生たちが生き生きされている。 ・先生方に活気があり、見ている方も気持ちがよい。 ・子どもたちに寄り添おうと、様々な実践をされていることに敬意を表す。 ・人のいいところ探しは見つけるのが難しいが、子どもたちは、たくさん見つけてることができていて感心する。だた、「きら星」合戦にならないようにしてほしい。 ・参観日では緊張した様子の子どもたちであるが、ボランティアに参加し、子どもたちの普段の顔を見ることができ、うれしかった。 ・これまでも地域との繋がりはあるが、学校の意向もくみながらの地域コーディネーターがほしいところである。 ・地域といっしょになっての学校生活も素晴らしい。 ・ボランティアについては、継続して周知することで少しずつ増えることを期待したい。 ・コミュニティ・スクールの推進のため、「広谷っ子育て隊」を募集され、今後の取組の推進が期待される。 ・広谷校区自治協議会でも「２次　地域づくり計画」で、学校との連携を計画しているので、具体策をともに検討されたい。 ・通学路の安全に関して、素早く対応していただき、たいへんありがたい。 ・今年度もコロナ７波、８波とたいへんであったが、学校としてしっかりと対応されていた。 ・コロナ対応を迅速にしていただき、ありがたい。 ・オンライン授業をしていただき、保護者としてもたいへん助かった。 ・マスク着用は、よい点、そうでない点とある。教育活動の内容に合わせた着用を考えなければならない。
確かな学力	・児童の主体性は育っているか。 ・児童のコミュニケーション力、表現力は高められているか。 ・学習タイム(チャレンジタイム)等により、基礎･基本の定着が図られているか。 ・ＩＣＴ機器（含タブレット）を活用して、学習活動の充実が図れたか。	B	・学級活動や児童会行事などでは、児童が主体的に、自主的に取り組む場面が多く見られた。 一方、各教科の指導においては、**今後も児童の「主体性」や「対話力」を伸ばす指導のあり方について一層の研修が必要である。** ・コミュニケーション力、表現力についても、自由な表現では活発な動きが見られるが、**改まった場や、条件付きの場面では、まだまだ力を発揮できない面がある。今後とも、学習活動を工夫していきたい。** ・学習タイム（チャレンジタイム）では隔週で国語、算数に取り組めた。取組内容（計算問題・音読・視写・長文読解など）を校内で統一し、工夫しながら全校生の基礎・基本の力の向上に努めることができた。朝読書の時間は静かに読書に取り組み、子ども達も読書の時間を楽しみにしている姿が見られた。 ・１人１台のタブレット環境を生かして、実際の授業にタブレットを多く導入し、魅力ある学習活動が展開できた。児童の活用能力も確実に向上しており、**今後さらに、効果的な活用について研究を進めていきたい。**	・体験活動は、子どもたちの心や生き方にも繋がる大切なことだと思う。 「やった」で終わらない学びをお願いしたい。 ・特別活動や学級活動、授業など、いろんな場で学校としての方向を共有して、今後も進めていってほしい。 ・年々、授業のスピードや他学年の学習事項が下の学年に下りてきているため、学習についていくのがたいへんだろうと思う。どうしても塾に行かなくては学習についていけない状況も出てくることも考えられ、費用面がたいへんになるのではないか。 ・10分読書タイム、チャレンジタイムなど、よい取組であるが、子どもたちの自由な時間が確保されているか。 ・何と言っても授業の勝負、若い先生も増えているので、今後も多様な授業研究を続けていってほしい。 ・ICT教育に関して、１～６年までのカリキュラムが確立され、先生方もスキルアップされていると感じる。オンライン授業はどこまで効果があるのか不安である。 ・タブレットの活用や説明会をリモートで行うなと、幅広い対応がなされている。しかしながら、早期に対面での会議などになることを望む。 ・掲示板等の書き込みに注意をはらう必要があり、指導が必要である。 ・ICTを活用した「ポジショニング」の授業では、意見集約が素早く確認できるので、たいへんおもしろい取組である。 ・ICT機器の活用は、今後もますますデジタルグローバル社会において、必須のものとなっている。学習の一層の推進をお願いしたい。 ・タブレットを活用した授業の継続を今後もお願いしたい。 ・ICTを活用した授業も大人よりもはるかに上をいっており、大人顔負けである。
豊かな心	・子どもの人権が大切にされていたか。 ・子どもの良さやがんばりが多く見られたか。 ・学級活動、児童会活動、異年齢集団活動など子どものつながりや活躍が見られたか。 ・いじめや問題行動等に適切に対応し、一人一人に寄り添った丁寧な指導が行えたか。	A	・人権教育研究推進校として、思いやりのある温かい学校づくりと、いじめなど人権課題に対応できる子どもの育成に努めてきた。 また、教員の人権研修を継続するとともに、校内の人権標語に取り組み、優秀作品を教室等に掲示した。人権に関する作文や標語、ポスターに応募したり、人権フェスティバルにおいて6年女児が意見発表を行った。 人権に対する感性が育っている児童の姿も見られ、人権をベースにした学校全体の雰囲気が醸成されている。 ・「ののくさ賞」「慎独賞」などの顕彰や、きら星や各学級での良いところ・がんばり見つけ，等を通して、自他の良さやがんばりが輝く学校づくりが実現している。 ・「広小ギネス」「Ｔ１」「すご１」などの取組、「カルタ大会」「リクエスト放送」など、各種委員会の企画、5-5交流、異年齢交流など、子どものつながりや活躍が見られ、自己有用感や自尊感情を育くむことができた。 ・「いじめアンケート」８回「生活アンケート」２回をほぼ毎月実施し、トラブルや不安の早期発見、早期対応につとめた。	・人権教育研究推進校として、思いやりのある温かい学校づくりと、いじめなど人権課題に対応できる子どもの育成は、人格形成において大事なことなので、引き続き、推進されたい。 ・おかしいと気づき、どうしていけばよいかを考え、行動に繋げていくことは、生きるとて大切なものであると思う。 ・先生方は、子どもたち一人一人を大事にしてくれている。人権の授業にも力を入れてくださっている。学習したことが実生活と結びつくよう期待したい。 ・教えてもらう立場、教える立場に上下目線がないだろうか。広谷小学校の先生方は子どもたちの目線で指導いただいている。 ・子どもたちのがんばりやよさに気づき、相手を思いやり、自分を見つめ直していく取組は素晴らしい。 ・様々な体験活動や行事など、子どもたちの主体性を伸ばす取組は大切なことだと思う。 ・子どもたちが中心となって行事を企画している。子どもたちから、楽しんでいる話を聞いている。 ・児童会主催での行事など、主体性が養われていてよいと思う。

４　総合的な学校関係者評価

・子どもたちに穏やか指導をされており、安心して学校の様子を伺うことができる。
・HPをリニューアルし、ほぼ毎日更新されていることは、なかなかできることではない。職員研修などにより、スキルアップを図り、タブレットを多く導入した授業や、オンライン授業などで成果を出されている。時代に合った取組をされていることを評価したい。
・ここ2、３年、コロナ禍で学校もたいへんであったが、反面、得られたこともあったのではないかと思う。だんだんコロナ禍前になっていくことと思うが、得られたものを取り入れながら進めていってほしい。
・学校も何かと課題が多く、一朝一夕にいかないものばかりである。そんな中でも、今年の重点という目標を定め、全職員で取り組んでいってもらいたい。
・マスクの解放は、いつになるのか。今後、なるべくはずす機会が多くなることを願う。

健やかな体	・ 子どもと一緒に遊ぶことができたか。 ・ 子どもの体力や運動能力の向上が図れたか。 ・ 睡眠、排便、歯磨きなど、健康に関する指導が進められたか。 ・ 教科や給食、栽培・調理などの体験等を通した食育を推進できたか。	A	・ 多くの教師が、大休憩や昼休みに子どもと共に遊ぶ姿が見られた。遊びを通して、人間関係を把握し、子どもとの信頼関係や安心感を醸成することができた。 ・ 体力づくりプログラム「やっぷーアップ」を体育の授業の導入部に設け、筋力、持久力、瞬発力、柔軟性などを高めることができた。 また、週に一度「わんぱくタイム」として清掃無しで長い休憩時間を設けるなど、児童が語らい広場や運動場に出て体を動かして活発に遊ぶことができる時間を確保した。 ・ 健康指導では、定期的な目の体操や歯磨きチェック、「ねるねるウィーク」による睡眠指導など、保護者の協力も得ながら進め、成果があった。 ・ 給食センター、栄養教諭と連携し食育を進め、食に対する関心を高めることができた。	・先生と子どもたちが一緒になって遊んでいる姿がすごく素敵である。 ・運動場で遊ぶ姿は「いいな」と思う。一緒に遊びにくい子らへの配慮も心してほしい。 ・子どもの体力低下が心配される。「やっぷーアップ」などの運動が興味深い。 ・「わんぱくタイム」を設けるなど、休み時間に、外で元気いっぱいに体を動かす外遊びが全校児童で習慣となるよう、今後も取組をお願いしたい。 ・体育での様子を見ていても、子どもたちの体力差が気になる。基礎的な体力づくりは、ぜひ続けてほしい。 ・いつもおいしい給食でありがたい。 ・食の指導についての授業をぜひ参観させていただきたい。 ・食育については、各家庭での食事も大切である。 ・食育、睡眠、口腔ケアなど、総合的な取組がよい。
学びを支える仕組みの確立	・ 子どもが安心して、生き生きと学校生活を送っているか。 ・ 安全点検、避難訓練など、児童の安全を守る取組は進められたか。 ・ 特別支援教育の理念に沿って、要支援児童への適切な指導や支援が行えたか。 ・ 養父中学校区小中一貫教育や広谷認定こども園との連携を推進できたか。	A	・ いじめやからかいなどに対する毅然とした指導、定期的なアンケートに基づく相談、児童会や学校行事など体験活動の充実など、子どもが安心して生き生きと生活できる環境を実現できている。 ・ 地震や火災を想定した避難訓練、定期的な校内施設の安全点検、登下校時の立ち番指導、警察による交通安全教室などを実施し、児童の安全確保に努めた。 ・ 校内ケース会議を定期に開催し、様々な課題を共通理解を図り、個別の支援を要する児童への対応について見通しをもって適切に進めることができた。また、特別支援学校、巡回相談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、関係機関と連携しながら個別の支援を推進することができた。 ・ 小中一貫教育では、中学校登校による中学校生活への意欲付けと心の壁の緩和ができ、部会を通して他校との連携を図ることができた。特に、部活動を体験できたことは児童や保護者の高い評価を得た。 こども園とは5-5交流や体験入学などの交流、ケース会議への参加など、円滑な接続を意識して連携を深めることができた。	・先生方が子どもの情報を共有され、指導に生かされていてよいと思う。広谷小は先生方も多いので、子どもたちにとってはプラスである。 ・いじめ、からかいの指導では、指導内容を子どもたちが理解し、その後も指導されたことが継続していけるよう願いたい。 ・世の中、いろんな事件が起こっており、火災や地震以外の訓練も必要である。 ・交通立番の回数を今後、増やしてみてはどうだろうか。 ・不登校に対する先生方の対応について、その子に合わせてくださっており、たいへん助かっている。 ・サポート室をよく見にいく。学校だけで抱え込まず、ともに繋がっていくことも学ぶことが多いと思う。 ・特別支援学級の先生は子どもたちに密に関わっておられ、たいへんよいことだと思う。 ・校内ケース会議を定期に開催され、様々な課題の共通理解を図り、個別の支援を要する児童への対応について適切に進められている。今後も各関係者、関係機関と連携しながら推進していただきたい。 ・小中一貫の取組で部活動体験はよい取組と思う。年間通して数回あるとよい。 ・部活動の体験入部はよい。「中ーギャップ」の解消もだが、授業内容も含め、先生方の交流を推進してもらえるとよい。 ・他校の児童との交流も大切に教育活動を行ってもらいたい。
家庭・地域との連携	・ 地域の教材や人材を活用した学習が進められたか。 ・ ＰＴＡ、学校運営協議会、ボランティアグループ等との連携が進められたか。 ・ オープンスクール、学校・学級通信の発行、ホームページ等で学校の様子を伝えられたか。 ・ 家庭と連携して「そうあんくんの日」の取組を進められたか。	B	・ コロナ禍ではあったが、地域の自然、文化、産業などを教材として学習を進めることができた。**今後も、感染状況を踏まえ、活用を模索していきたい。** ・ 新型コロナの影響で、延期、中止、紙面開催など、制限を余儀なくされた。福井建設さんの申し出による大型重機の見学や試乗、中野醤油での見学やＭＹ醤油づくり、西垣さんによる浅黄豆の栽培や豆を活用した豆腐づくりなど、多様な教育活動を展開できたことは感謝した。 ・ 春の参観日はオンラインとしたが、それ以降は分散開催でオープンスクールを実施できた。 ホームページをさらにリニューアルし、「広小トピックス」としてほぼ毎日学校の様子を発信することができた。毎日80名近い閲覧者があり、評価アンケートでも満足していただいていることが分かる。 学校だより、学級通信を定期的に発行して情報発信ができ、学校に対する信頼を得ることができた。 ・ 「そうあんくんの日」の取組では、読書・お手伝い・ノーメディアの３つの要素で子どもが取り組んだ。ノーメディアに家族で協力する、コメントに励ましの言葉を書くなど、保護者の協力で定着が進んだ。 第4水曜日の「スーパーそうあんくんの日」の取組みも定着し、自分のやりたいことに没頭する、家族とのふれあいの時間を持つなど、趣旨が十分に果たされている。	・地域教材を大切に教育活動に取り組んでもらいたい。 ・地域の会社を見学させていただき、子どもたちもたいへん喜んでいた。今後も続けてお願いしたい。 ・外部講師の活用が進むとよい。地域の方々の仕事を知る機会になってよい。 ・何もかも学校が抱えるのは大変である。やはり地域コーディネーターが必要である。 ・サイバーへの対応も大切である。 ・「学校だより」を配布いただき、学校の様子を知ることができている。 ・学校を知る機会がもっとあればよい。 ・たいへんお忙しい中だとは思うが、継続して情報発信をしていただきたい。 ・学校と地域、自治協議会との連携により、授業、活動することは、地域の宝である子どもたちを、地域で知ってもらう機会を増やすことになる。地域にオープンスクール、HPなどにより、学校を知ってもらう機会を増やしていくことは大事である。今回、HPをリニューアルされ、見やすくされたことはよい取組である。 ・ノーメディアも家族全体で取り組めてよい。 ・大人も相当気を付けていかないと、ノーメディア等の取組は充実させていくのがたいへんだと思う。 ・「そうあんくんの日」の必要性を考えなければならない。お手伝いを強制するようなことがないようにしなければならない。 ・「そうあんくんの日」は、何かのきっかけにもなるので、続けていってほしい。
教職員の資質向上	・ 教員としての資質や実践的指導力を高めるために研修ができたか。 ・ 体罰をなくし、児童と心の通い合う温かい人間関係が構築できたか。 ・ 会議や研修の効率化、情報や物品の整理など、業務改善は図れたか。 ・ 超過勤務時間を縮減し、ワークライフバランスを実現できたか。	A	・ 計画的に研修を進め、授業改善に努めている。本年度は、代表者による模擬授業を行うことで、研修の成果が大きく向上するなど、実践的指導力を高めることができた。 ベテラン教員の指導のもと、若手教員も積極的に研修に励み自己の向上に努めている。校内ＯＪＴが機能し、様々な教育活動に生かされている。 ・ 体罰やハラスメントに関する研修を行い、自他のあり方について意識の向上を図った。 また、児童への声かけや称賛の付箋メモ、日記や作文へのコメントなど、子どもとのつながりを深める取組を日常化させた。 ・ 会議や研修は１時間１５分以内に設定、事前の文書準備や協議のポイントを赤字で表記など効率化を図った。サーバー内のフォルダ構造を整理し、データにアクセスしやすくして効率が上がった。 ・ 定時退勤日が定着し勤務時間の適正化が進んでいる。また、年休取得も平均12.4日で付与１／２をほぼ全員が達成し、計画的に休暇を取得している。そのため、教員のワークライフバランスの充実と子どもと向き合う時間の確保ができている。	・全職員による授業研究はもちろんだが、指導力向上はすぐになるものではないと思う。日常的に先生同士で学べる体制が整えばと思う。広谷小は若い先生方も多く、学び合える雰囲気があるので期待している。 ・先生から「応援メッセージ」をいただいている。子どもたちの励みになる。今後も書いてやっていただけるとありがたい。 ・一人の子どもを一人の人格として認め、子どもたちの指導にあたることが大切である。 ・民主的な指導を行うことが大切である。 ・様々な取組により、先生方の負担が増えないよう、先生も児童も心身ともに健康であることが望ましい。 ・授業計画、生活指導、行事計画等と忙しく、業務改善もたいへんだと思うが、先生方の元気が何より大事である。 ・勤務時間の適正化については、今後も取り組んでいただきたい。教職員のワークライフバランスの充実と子どもと向き合う時間を確保するために必要である。